

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
織田ファッション専門学校	昭和51年9月1日	鈴木 貴子	〒164-0001 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人織田学園	昭和40年10月21日	鈴木 貴子	〒164-0001 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
服飾・家政	服飾専門課程	ファッションデザイン科	平成21年文部科学省 告示第21号	—																											
学科の目的	服飾に関する専門的学理と技術を教授するとともに、就職した現場で大切なビジネス感覚を持ち合わせ、さらにデザインだけでなく服の構造であるパターンや仕様が理解できるデザイナーを目指す。																														
認定年月日	令和4年3月25日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2170	663	0	1587	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
80人	28人	1人	9人	23人	32人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌年3月31日		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 教科目の成績の評価は、「S」(100点～90点)・「A」(89点～80点)・「B」(79点～70点)・「C」(69点～60点)・「D」(59点以下)の5段階をもって表わし、C以上を合格とする。 評価の方法: 出席率などの学習態度を勘案しながら、筆記試験(論文を含む)の成績、実技の成績、その他の方法により総合的に評価する。																												
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月9日 ■学年末:3月21日～3月31日		進級条件: 1年次のすべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。 卒業条件: すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。																												
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール・個別面談・保護者面談		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 研修旅行、学園祭、各種コンテスト参加 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																												
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) アパレル業界 ■就職指導内容 就職ガイダンス、卒業生の講演、キャリアセンター設置、就職支援サイトキャリアマップ導入 ■卒業生数 : 11 人 ■就職希望者数 : 0 人 ■就職者数 : 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・内部進学者数: 10人 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パターンメーキング検定2級</td> <td>③</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>パターンメーキング検定3級</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定2級</td> <td>③</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ファッション色彩能力検定2級</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	パターンメーキング検定2級	③	7	6	パターンメーキング検定3級	③	13	11	ファッションビジネス能力検定2級	③	2	0	ファッションビジネス能力検定3級	③	3	2	ファッション色彩能力検定2級	③	1	0
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
パターンメーキング検定2級	③	7	6																												
パターンメーキング検定3級	③	13	11																												
ファッションビジネス能力検定2級	③	2	0																												
ファッションビジネス能力検定3級	③	3	2																												
ファッション色彩能力検定2級	③	1	0																												
中途退学の現状	■中途退学者 6名 令和3年4月1日時点において、在学者30名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者24名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題・進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制度、個人面談、保護者面談、学生相談窓口設置(メンタルカウンセラー)、キャリアサポート		■中退率 20%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・入学金等免除制度・・・指定校推薦入学では評定平均値により、キャリア入学では社会人等の条件により、入学金や選考料を半額等免除する制度 ・ODA特別紹介制度・・・織田学園の卒業生・在校生の紹介により入学する場合、入学金の全額または半額を免除する制度 ・各種コンテスト入賞者免除制度・・・織田ファッション専門学校主催の「高校生ファッションデザインコンテスト」「高校生コーディネイトコンテスト」等で所定の賞を受賞した方の入学金の全額または半額を免除する制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	https://fashion.oda.ac.jp/academics/design/																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
本校カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。2年間を通して服飾造形に必要な基本的技術を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置付けられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
本多 徹	日本モデリスト協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
太田 みぎわ	WaCCa デザイナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
上島 朋子	株式会社near パタンナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
稲山 昌美	血海衣料株式会社 デザイナー	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
鈴木 貴子	織田学園理事長・織田ファッション専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
丸山 美智子	織田ファッション専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
高橋 明美	織田ファッション専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
中 宏樹	織田ファッション専門学校 教員	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年11月16日(火) 15:00～16:20

第2回 令和4年3月17日(木) 14:00～15:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会でのご意見を参考に企業が求める人材育成のため、教員間でさらに話し合いを重ね、改善できるように努力している。課題点として挙げたデジタル化や学外へのアピール力強化については、授業科目「スタイル画」でのiPadの導入やプレゼンテーションのLive配信などを授業に取り入れ改善に努めている。今後はさらなるデジタル化の強化や学生のプレゼンテーション力向上のために、課題発表をより多くの方に見ていただける機会を設けていきたい。また学内のイベントや授業についても、もっと学外にアピールしていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

感性を豊かにし、クリエイションを表現するための基礎力、売れる商品をデザインするための企画力を養い、アパレル業界の仕組みを理解できる人材を育てるため、企業からの直接指導を受け、現場の厳しさや最新技術等を学ぶことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

デザイナー(デザイン科)とパタンナー(テクニカル科)が連携しながら取り組む課題があると良いというご意見を参考に、それぞれの立場から意見を出し合いながら作品作りを行い、より実践的なカリキュラムの導入を検討する。また、展示会等への訪問の機会を増やすべきとのご意見を参考に、展示会・展覧会へ訪問する計画を立てている。様々なものを見て触れる機会を増やすことで、学生の知識を広げ、感性を磨いていきたい。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
服飾造形Ⅱ (服飾造形デザインⅡ)	リサーチ、企画、デザイン、パターンメイキング、サンプル検討、展示会、反省会まで企業の一連の流れを学ぶ。受注した商品を各お客様に向けて本生産する。サンプル製作、オーダー品の製作した商品を検品していただく。	株式会社カラビナクリエーション
服飾造形Ⅱ (服飾造形ソーイングⅡ)		
企業コラボⅠ		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生に教育指導するため及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

◇研修名「セコリ 本コース」(連携企業等:セコリジャパンスクール)

期間:令和3年4月～7月 全7回 対象:2名

内容:イタリアセコリ式パターンメイキング及びグレーディングの講習、ジャケット製作。

◇研修名「サステナビリティサミット2021」(連携企業等:WWD JAPAN)

期間:令和年11月24日 対象:3名

内容:サステナブルを意識した新素材やバーチャルファッションの現状とこれからについて学ぶ。

◇研修名「アパレル業界DXセミナー」(連携企業等:株式会社Too)

期間:令和3年12月16日 対象:3名

内容:ECサイトでCLOの活用について、CLOに互換性があるその他のソフトについて学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

◇研修名「授業動画を活用した学びの楽しさ」(連携企業等:(講師)葉一)

期間:令和3年12月3日 対象:2名

内容:子供たちが自ら学ぶ授業動画の効果的な利用方法、子供の心をつかむ授業動画の手法を学ぶ

◇研修名「学生カウンセリング研修会」(連携企業等:慶生会滋慶トータルサポートセンター)

期間:令和4年1月26日 対象:1名

内容:Z世代の特有の価値観や考え方を理解し、精神的に脆弱な学生への対応や合理的配慮における面談力を学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

◇研修名「新ものづくり研究会」(連携企業等:アズマ株式会社 講師:稲荷田 征先生)

期間:令和4年5月～毎月1回開催予定 対象:2名

内容:連携企業等との研究をとおして繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。

◇研修名「弥生会」(主催:弥生会)

期間:令和4年4月～毎月1回 対象:8名

内容:パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

◇研修名「GIGAスクール構想ICT利活用の高度化」(連携企業等:東京都私学財団)

期間:令和4年7月 対象:1名

内容:ICT利活用の高度化が進む中において、指導する教員にはどのような発想やスキルが求められるのか学ぶ。

◇研修名「パソコン講座」(連携企業等:東京都私学財団)

期間:令和4年8月 対象:3名

内容:Word、Excel、PowerPointの基礎・応用を学ぶ、表計算の活用やパワポを使ったプレゼン授業を指導する際の指導力を高める。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価について客観性と透明性を高めるとともに、学校関係者から助言を得るため、外部評価を実施する。本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、改善提案を行い、質の向上を目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は、定められているか
(2) 学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4) 学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5) 学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	数値目標(入学生数80名)は達成できたか
(8) 財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9) 法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10) 社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員会からの指摘を反映し、就職支援については、コロナ禍により変化したアパレル業界への就職支援体制の強化を図ります。社会貢献については、徐々に再開し始めている地域イベントへの積極的参加を推し進めます。また、国際交流については、今後再開される見込みの、外国人留学生の受け入れ態勢を、従来の形態に戻すことを図ります。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	令和4年4月25日～ 令和5年4月24日(1年)	元高校教員
辻 庸介	株式会社辻洋裁店 取締役会長	令和4年4月25日～ 令和5年4月24日(1年)	企業等委員
松野 仁美	フリーランス スタイリスト	令和4年4月25日～ 令和5年4月24日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/reports/>

公表時期: 令和4年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページとパンフレットにより教育活動や取り組み等の学校運営について最新情報の提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3) 教職員	校長メッセージ、教員からのメッセージ、教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6) 学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8) 学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11) その他	ファッション学生にインタビュー!、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/>

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションデザイン科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		服飾造形Ⅰ (服飾造形論Ⅰ)	服飾に関する基礎知識の講義。 各製作するアイテムに関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	1通	56		△	○	○		○			
2	○		服飾造形Ⅰ (服飾造形デザインⅠ)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。	1通	15		△	○	○		○			
3	○		服飾造形Ⅰ (服飾造形パターンメイキングⅠ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。	1通	186		△	○	○		○			
4	○		服飾造形Ⅰ (服飾造形ソーイングⅠ)	基本的な縫製技術の習得。 原型・スカート・シャツ・ワンピース・子供服・パンツ・ジャケット・修了作品の実物製作とレポート製作。 各アイテムに必要な部分縫い製作。	1通	319		△	○	○		○			
5	○		服飾造形Ⅰ (服飾造形ドレーピングⅠ)	ドレーピングの基礎と原型、タイトスカートのドレーピング。	1後	65		△	○	○		○			
6	○		服飾造形Ⅰ (生産管理概論Ⅰ)	市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	1通	9		○			○		○		
7	○		服飾造形Ⅰ(服飾手芸Ⅰ)	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展出来るように、エンブroidアリー刺繍のテクニックを学ぶ。	1通	10		△	○	○		○			
8	○		CGⅠ	PC及びグラフィックソフトの基本操作を習得する。 基本的なグラフィックデザインにおける知識を学び、課題を行うことでCGソフトの設定や操作に慣れることを目的とする。	1通	50				○				○	
9	○		GAD	アパレルのパターンメイキングでは必須の技術である、アパレルCADの操作を習得する。基本的な設定・基本的な操作に慣れるように簡単な課題を積み重ねていく。	1後	10		△	○				○		
10	○		基礎デザイン	ファッションデザインに限らず、身の回りのモノも含め『デザイン』を理解する。実習を通し、デザイン技法を理解・習得する。	1前	40		△	○	○		○			
11	○		クリエイションⅠ	デザインとは何か、個々のオリジナル性を追求し、どういう事を理解し、学ぶ。実習、プロジェクトを通し、リサーチの重要性、デザインやカラー、バランスを認識・理解する。	1通	30		△	○	○			○		
12	○		スタイル画Ⅰ	スタイル画の基礎、プロポーション、顔、身体などの描き方、平絵、Adode Frescoの使い方を学ぶ。	1通	50		△	○	○		○			
13	○		マテリアルⅠ	被服素材の基礎と服のデザインやパターンとの関連性を解説する。 画像や実物の説明から視覚からの認知を高める。 被服素材の基礎知識を習得する。	1通	40		○		△	○			○	

14	○		ニット I	横編みニットの基礎知識 基本的なニットの編みと編地について理解し商品を見たときに、編み方と製品化の方法基本編み組織がわかるようになる。	1 前	10		○		○				○
15	○		カラー I	色彩の基礎知識をもとに、調和のとれた配色方法と配色テクニックを学ぶ。	1 通	50		△		○	○			○
16	○		ファッション ビジネス概論	講義だけでなく、グループミーティングも含め、多角的に学ぶ。 アパレル業界の仕組み、流れの理解。 服飾の授業との連動で商品企画。	1 通	36		△		○	○			○
17	○		西洋服装史	衣服の起源と古代から現代までの西洋服飾の変遷を、映像を交え解説。文化、芸術、宗教など様々な歴史との関連を持つ装いを理解し、現代のファッションやデザイナーにも影響を与えていることを踏まえつつ、興味と知識を深める。	1 後	30		○		○				○
18	○		就職講座 I	アパレル企業の仕事の内容を理解して企業研究をし、具体的に企業で働く事の意識を高める。	1 通	14		○		○				○
19	○		校外授業 I	クラスの親睦を深めるためにウォークラリーを実施。感性や知識を深めるための美術館見学など。	1 通	28				○		○	○	
20	○		特別講義 I	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	1 通	24		○		○				○
21	○		服飾造形 II (服飾造形論 II)	各製作するアイテム、素材に関する基礎知識の講義。試験で確認する。	2 通	30		△		○	○			○
22	○		服飾造形 II (服飾造形デザイン II)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。デザインバリエーションの展開。	2 通	16		△		○	○			○
23	○		服飾造形 II (服飾造形パターン メイキング II)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。 原型からのパターン展開。	2 通	200		△		○	○			○
24	○		服飾造形 II (服飾造形ソーイング II)	工業的な縫製方法、伸びる素材、厚い素材の基本的な知識を学ぶ。 早縫いジャケット、カットソー、セットアップ、ショー作品、CGプリントのシャツ、コート、ブラックフォーマルの実物製作と部分縫い。	2 通	376		△		○	○			○
25	○		服飾造形 II (服飾ドレーピング II)	1年次の基本をもとに、応用して学ぶ。 原型、ダーツ遊び、ヨーク付きギャザースカート、オーバーブラウス、ワンピース、デザインスカート、OFDCトワルのドレーピング。	2 通	80		△		○	○			○
26	○		服飾造形 II (生産管理概論 II)	アパレルの生産システムを学ぶ。 市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	2 通	10		○		○				○
27	○		服飾造形 II (服飾手芸 II)	1年次の基本をもとに色々な材料で応用する。 ビーズ刺繍、キルティング、リボン刺繍のテクニックを学ぶ。型入れの帽子を製作する。	2 通	8		△		○	○			○
28	○		CG基礎	1年次に履修したPhotoshop、Illustratorを下敷きに、よりファッションデザインに特化した使用方法を理解する。	2 前	12		△		○	○			○
29	○		CG II	PHOTOSHOP、ILLUSTRATOR、POWERPOINTの操作およびCGによるアパレル企画分野でのプレゼンテーション力のスキルアップ。 プリント柄のデザイン展開の理解。	2 通	30				○				○

30	○		3DCAD I	CL0の基本操作を習得をはじめとして、レンダリング出力、モーション設定、生地物性測定など、幅広い技術を身に付ける。	2前	40		△	○		○		
31	○		企業コラボ I	学生達が企画から生産までの企業の仕事の流れを経験する。自由が丘周辺、百貨店をリサーチすることにより、ターゲットが何を好むか、どのようなデザインが中年層を美しく見せるかを知り、企画・デザインに生かす。一人一人をフィッティングすることによりお客様の体型を勉強する。	2通	18		○		○		○	○
32	○		クリエイション II	デザイン発想方法のヴァリエーションを増やす。コンセプトが伝わるデザインの作り方を理解して、伝えられるようになる。様々な発想方法を実践で学ぶ。	2前	24		△	○			○	
33	○		クリエイション II	デザインとは何か、個々のオリジナル性を追求し、それがどういう事かを理解し、学ぶ。実習、プロジェクトを通し、リサーチの重要性、デザインやカラーの展開の仕方、コレクションのバランスの作り方、ポートフォリオのまとめ方、自分の作品の見せ方を理解し学ぶ。	2後	24			○				○
34	○		スタイル画 II	基本アイテムを正確に描く。表現力の向上。	2通	58				○	○		○
35	○		マテリアル II	素材の流行、選択、管理を解説する。繊維の基本の加工を理解する。染色の基礎を理解する。流行による素材の方向性の変化を理解する。	2前	26		○		△	○		○
36	○		ニット II	編地の種類とニット成型、縫製について理解を深め仕様書作成時にイメージが落とし込めるようにする。	2前	10		○			○		○
37	○		カラー II	色彩の基礎知識をもとに、個性ある様式美の色彩表現や、想像力を活かしたファッションイメージの色彩計画が行なえることを目標とする。	2前	30		△		○	○		○
38	○		マーケティング	既存ブランドから、マーチャライジング・ブランディングの初級知識を理解する。	2後	10				○	○		○
39	○		就職講座 II	技術職として就職活動するための心構えから学ぶ。業界新聞を読んで、アパレル業界の現状を知り知識を得る。具体的な履歴書の書き方インターシップの受け方などを指導。	2通	16		○			○		○
40	○		校外授業 II	研修旅行として企業コラボに関係するデニムに関する工場見学を実施。その他ピキーズショー見学や美術館見学を通して知識と感性を養う。	2通	40					○	○	○
41	○		特別講義 II	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	2通	40		○			○		○
42		○	ゼミナールCAD I	CADオペレーション能力の向上。各自で課題を設定しCADオペレーション、パターンメイキングを習得する。	2後	40		○			○		○
43		○	ゼミナール3DCAD I	CL0 Iのステップアップコース。基本的な内容の復習とオリジナル表現を追及する。	2後	40		○			○		○
合計					43科目	2250単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
全ての課題を提出する。各教科の出席が2/3以上であること。 各教科の成績がC以上であること。 (留意事項)		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	平均16週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。